

質 問 等	回 答		
<p>年次報告書(案)のP11 図表 12 について、「HDI 人間開発指数」については「人間開発報告書 2016」を基に、「GGI ジェンダー・ギャップ指数」については「The Global Gender Gap Report 2017」を基に作成してあるが、それぞれのデータの年次にずれがあるため、年次を合わせた方がわかりやすいのではないか。</p>	<p>ご意見のとおり、それぞれの年次にずれがある状況です。</p> <p>「人間開発報告書」及び「The Global Gender Gap Report」は各々毎年発表されており、本報告書で可能な限り最新の情報を提供したいと考えております。</p> <p>「人間開発報告書」は例年発表時期が定まっておらず、今の時点では 2017 年版がいつ頃発表されるか未定のため、現時点での最新データである 2016 年版を掲載しています。</p>		
<p>年次報告書(案)のP18 図表 29 について、平成 29 年度版の年次報告書では男性と女性の所定内給与は 30 歳代後半から差が開き始めるのに対し、平成 30 年度版では 20 歳代後半から差が開き始める結果となっている。一年でここまで変わる要因は何か。</p>	<p>ご指摘の男女間の格差については、次のとおりとなります。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: top;"> <p>【平成 29 年度版】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>20 歳代前半まで・・・女性がわずかに高い</p> <p>20 歳代後半・・・18.7 千円</p> <p>30 歳代前半・・・32.6 千円</p> <p>30 歳代後半・・・50.0 千円</p> <p>40 歳代前半・・・101.6 千円</p> <p>40 歳代後半・・・113.6 千円</p> </div> </td> <td style="text-align: center; vertical-align: top;"> <p>【平成 30 年度版】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>20 歳代前半まで・・・ほぼ横ばい</p> <p>20 歳代後半・・・20.8 千円</p> <p>30 歳代前半・・・40.8 千円</p> <p>30 歳代後半・・・57.4 千円</p> <p>40 歳代前半・・・71.0 千円</p> <p>40 歳代後半・・・96.8 千円</p> </div> </td> </tr> </table> <p>男女間の差の開き方として、平成 29 年度版も平成 30 年度版も 20 代後半から差が開き始めていますが、平成 29 年度版では特に 30 代後半からの開き方が大きかったため、紹介文の表現として「30 歳代後半から差が開き始める」とし、平成 30 年度版については「20 歳代後半からの差が開き始める」と表記しております。</p> <p>差の開き方としては、いずれも 20 歳代後半から広がり始める構図となっております。</p>	<p>【平成 29 年度版】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>20 歳代前半まで・・・女性がわずかに高い</p> <p>20 歳代後半・・・18.7 千円</p> <p>30 歳代前半・・・32.6 千円</p> <p>30 歳代後半・・・50.0 千円</p> <p>40 歳代前半・・・101.6 千円</p> <p>40 歳代後半・・・113.6 千円</p> </div>	<p>【平成 30 年度版】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>20 歳代前半まで・・・ほぼ横ばい</p> <p>20 歳代後半・・・20.8 千円</p> <p>30 歳代前半・・・40.8 千円</p> <p>30 歳代後半・・・57.4 千円</p> <p>40 歳代前半・・・71.0 千円</p> <p>40 歳代後半・・・96.8 千円</p> </div>
<p>【平成 29 年度版】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>20 歳代前半まで・・・女性がわずかに高い</p> <p>20 歳代後半・・・18.7 千円</p> <p>30 歳代前半・・・32.6 千円</p> <p>30 歳代後半・・・50.0 千円</p> <p>40 歳代前半・・・101.6 千円</p> <p>40 歳代後半・・・113.6 千円</p> </div>	<p>【平成 30 年度版】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>20 歳代前半まで・・・ほぼ横ばい</p> <p>20 歳代後半・・・20.8 千円</p> <p>30 歳代前半・・・40.8 千円</p> <p>30 歳代後半・・・57.4 千円</p> <p>40 歳代前半・・・71.0 千円</p> <p>40 歳代後半・・・96.8 千円</p> </div>		

<p>年次報告書（案）の P30 で、育児休業取得率は図表 50、51 で掲載されているが、介護休業取得率の表はなぜないのか。</p>	<p>介護休業取得に関する本県のデータがないため、育児休業取得率など熊本県の労働状況につきましては、「熊本県労働条件等実態調査報告書」を参考に作成しております。</p> <p>本調査は、県内の労働者の賃金や労働時間などの労働条件等の実態を把握し、施策の基礎資料とするとともに、結果を労働関係者や労働関係機関に提供することにより、健全な労使関係の発展に役立てることを目的として、毎年2000事業所を対象に実施しているものです。</p> <p>調査項目につきましては、その時々々の労働情勢のニーズ等に沿って一部変更していますが、調査の継続性の維持及び回答数を確保するため質問数は極力増やさないこととしており、見直しは最低限に留めているところです。</p>
<p>年次報告書（案）の P9 で、未婚率が熊本県において平成に入り男女ともに増えている理由は何か。</p>	<p>本県独自の理由を把握したデータ等はありませんが、全国とほぼ同様の推移となっています。</p> <p>内閣府の少子化社会白書によると、少子化の原因として、仕事と子育てを両立できる環境整備の遅れや高学歴化、結婚・出産に対する価値観の変化、子育てに対する負担感の増大、経済的不安定の増大等を要因と分析されていますが、未婚率の増加の背景も同様の理由によるものと思われます。</p>